



韓国語教材は「冬ソナ」

鹿東高 推進協会で実践報告

鹿児島県内の高校で韓国語教育の研究と普及を図る「県外国語教育多様化推進連絡協議会」(議長・入佐信宏志学館大学専任講師)が二十三日、鹿児島市の鹿児島東高校であった。韓国の人気ドラマを引用し、高校生の

興味をひく教材作りなど、本年度の取り組みが紹介された。

同校の山下敏裕教諭は、テレビドラマ「冬のソナタ」の名場面から教科書には載っていない日常会話の教材を作り、授業に活用している実践例を報告。「生徒から『韓国の高校生と話してみた』ら、自然な会話ができた」と感想が出た。今後は高

校生同士の交流や初級者向けの教材作りを手掛けた」と話した。

来年度については、生徒が自学自習できるパソコン教材の開発や韓国語を教育課程にどう組み込むかなどを検討すべきという意見が出た。

県は本年度、文部科学省から「外国語教育多様化推進地域事業」の指定を受け、韓国語の授業がある同校と開陽高の二校で研究を進めてきた。事業は二年間。

流行曲の歌詞を聞き取る
1年生の韓国語の授業

23日、鹿児島東高校